

# 日本語教育と日本研究がどのように提携できるか

マギー梁安玉

香港大学

香港日本語教育研究会 会長

## 【要 旨】

2006年から、香港で一世紀以上も継続してきた英国式の教育制度が改革され、6・3・3・4制が実施されている。この教育改革の目標は、学校、教師、生徒に多くの可能性を与え、全体に均衡の取れた学習機会を提供し、生涯学習の基盤を築き、香港の文化国際大都会としての発展に寄与することである<sup>1</sup>。

香港における日本語教育は1980年代から盛んで、日本研究は年々多様化しつつある。2009年からの新しい高校の教課に外国語が選択科目として取り入れられ、日本語の学習者の増加が予想される。

従来、香港の高等教育における日本語教育は語学力 (Proficiency) を培うコースで、日本研究は内容中心 (Content) のコースで行われてきた。今後、年少の学習者の増加と大学での学習期間が長くなる<sup>2</sup>ため、高等教育における日本語教育と日本研究のレベルアップが期待される。

本稿は、香港の日本語教育と日本研究を取り上げながら、教育改革の目標を踏まえ、全人教育・生涯学習の一環、日本研究専門家の育成、国際人・グローバル人の育成を中心に、日本語教育と日本研究との有機的な提携を考えてみたい。

### 1. 香港の高等教育における日本語教育

現在香港には高等教育機関が10校<sup>3</sup>あり、その中で、日本語教育・日本研究を専攻、又は副専攻として開講しているのは四校<sup>4</sup>であり、これ以外の学校では日本語を選択科目、又は一般教養科目として開講している。各大学で、様々な形で、日本語のコースが設けられていることは香港の日本語教育における多様化の表れだとも言えよう。

香港大学では、(1) 日本研究専攻の学部生のための主専攻としての日本語、(2) 他学科の学生のための副専攻としての日本語、(3) 全校の学生が自由に取れる選択科目としての日本語、しかも単位ではなくて、一定の時間数を履修すれば、履修証明書がもらえるもの<sup>5</sup>、(4) 大学の職員のための日本語、(5) 一般社会人のための日本語の5種類の日本語コースが開講されている。

香港中文大学には、(1) 日本研究専攻の学部生のための主専攻としての日本語、(2) 他学科の学生のための副専攻としての日本語、(3) 全校の学部生のための選択科目としての日本語が開講されている。

香港城市大学では、学部とAssociate Degree（日本の短大に相当する）に日本研究のプログラムが開講されているので、日本語コースも多種多様ある。学部レベルでは(1)日本研究（言語研究専攻の学部生のための専攻としての日本語、(2)国際ビジネス研究(日本)専攻の学部生のための専攻としてのビジネス日本語、(3)全校の学部生のための選択科目としての日本語がある。それに、Associate Degreeでは(1)応用日本研究専攻学部生のための専攻としての日本語、(2)英日言語研究専攻学部生のための専攻としての日本語、(3)中日言語研究専攻学部生のための専攻としての日本語、(4)全校のAssociate Degreeの学生のための選択科目としての日本語がある。

また、香港理工大学では、学部レベルの日本語は副専攻と選択科目として開講されている<sup>6</sup>。

今まで香港では、中等教育には日本語は正規教科として取り入れられていなかったため、学生は大学に入学してから、日本語の学習し始める者が多かった。しかし、中には、独学であったり、民間の日本語学校で勉強したり、Associate Degreeの日本語プログラムを卒業したりする日本語の既習者もいる。大学側は学習者の日本語のレベルによって、それに相応しい科目を勧めている。大学での日本語コースは基本的には読む、書く、話す、聞くという四技能を訓練し、それに学生のレベル(例えば日本に一年間留学した経験者など)に応じて、よりレベルの高い日本語コースを選べるようにしている。

## 2. 香港の高等教育における日本研究

### 2.1. 授業での使用言語

香港における言語教育政策の目標は、学生と社会人に「二文（書き言葉の英文と中文）三語（話し言葉の中国語、広東語と英語）」という語学力を身につけさせることで<sup>7</sup>、日本語は殆どの香港の学習者にとっては第三の書き言葉になり、第四若しくは第五の話し言葉になる<sup>8</sup>。更に、高等教育の教員は世界中から募集しているので、教師陣は多国籍で、しかも近年海外からの留学生も増えつつあり、日本研究の授業で使用されている教授言語も大学によって多様化している。

香港大学は使用言語が英語の大学なので、中国語と中国研究のコースは基本的には中国語又は広東語で授業が行われるが、それ以外のコースは原則として英語で行われることになっている。但し、日本語・日本研究や英語以外の諸外国語、地域研究においてはそれぞれの言語を使用することも奨励されている。

香港大学の日本研究学科の日本研究の科目は二種類に分けられる。一つは語学力を向上させながら日本社会と文化を教材にする「言語集中コース、Language-intensive course」である<sup>9</sup>。これらのコースを履修する資格は日本に一年間の留学経験者、若しくは日本研究を専攻し、二年目に履修した日

本語のコースを全て「A」の成績を収め、日本研究の教師の推薦のあるものである。そして、卒業時「Special Honours (SH) in Japanese Studies」を修得することができる。これらのコースの特徴としては、日本研究<sup>10</sup>を日本語で行うということで、学習者には相当高い日本語の能力を要求される。現にこの「Special Honours (SH) in Japanese Studies」の目標の一つは大学院において日本語で日本研究に従事できる人材を育成することにある<sup>11</sup>。これらのコースは語学力、内容ともに重視されている、いわば、日本語と日本研究が一体になっている科目である。

香港の大学は2012年から、現行の三年制から四年制に変更になるので、このような科目はより充実していくと期待される。

これに対して、内容中心の日本研究のコースがある。これらのコースの目的は日本の伝統と現代社会と文化における様々な分野への深い理解を与えるもので、授業は英語で行われている。その中の幾つかのコースは日本研究学科ではなく、芸術学科、歴史学科や社会科学が担当しているものもある<sup>12</sup>。これらのコースは日本研究学科、文学部以外の学生も履修でき<sup>13</sup>、日本語能力を要求しないコースが殆どである。それぞれのコースが日本研究を専攻している学習者には良質の専門知識を与えることはいうまでもないが、日本語と日本研究の普及にも役に立っていると思われる。また、学生の使い慣れている英語で内容の濃い日本研究における専門分野の知識が獲得できることはグローバル化の教育には重要な役割を果たしていると言えよう。実際、これらの英語の日本研究のコースを受講しているうちに、日本に対する興味がわき、ついに本格的に日本語、日本研究を始める学生が出てきている。

香港中文大学では、名前の通りに中国語、又は香港の日常語である広東語で授業を行うことが多い。そして、日本研究学科の日本研究の科目は知識の伝達が中心になっていて、教授言語は担当教員によって英語、中国語又は広東語が使われている<sup>14</sup>。但し科目によっては学習者にはかなり高い日本語能力、例えば日本に一年以上留学したことがある、またはそれに相当する日本語の語学力が要求されている<sup>15</sup>。

香港では、学部レベルでは香港大学と香港中文大学の二校だけに日本研究プログラムが開講されている。そのほか、香港城市大学ではBA in Language Studies (Japanese) (言語学学士 (日本語)) というプログラムがあり<sup>16</sup>、日本研究の科目は英語、中国語又は広東語を教授言語としている。

香港の高等教育機関には、学士号を授与する学部以外に、二年制の「Associate degree」(日本の短期大学に当る)における日本語教育と日本研究のプログラムがあるが、履修年数が二年しかないので、語学力の訓練が中心になり、日本研究の科目は入門的なもの<sup>17</sup>が殆どで、教授言語はやはり英語、中国語又は広東語である。

香港中文大学では、MA in Japanese Language and Teaching（日本語教授修士号）、香港理工大学ではMA in Japanese Studies for the Professionals（専門日本研究修士号）という修士課程が開講されている。これらのプログラムに入学するためには、日本語能力試験の一級合格、またはそれに相当する日本語力が必要なので、授業は日本語で行われている。

まとめて見ると、現在香港の高等教育における学部レベル日本研究のコースの大部分は、学習者の日本語学習年数を配慮しながら、知識の伝授に重点を置くので、学習者の理解できる英語、中国語又は広東語で行われている。しかし、大学院レベルでは、日本語によって日本研究が行われているということである。

## 2.2. 日本研究の科目の多様性：現地性と国際性

香港政府は2000年に、21世紀に相応しい人材を育成するために、Reform Proposals for the Education System in Hong Kong（香港の教育制度改革提案）<sup>18</sup>を公表し、“Learning for Life, Learning through Life”（生活のための教育、生活を通じた教育）という学習者中心の教育目標を挙げた。特に強調されているのが香港社会の繁栄、進歩、自由と民主化、国（中国）と世界の良い未来に貢献できる人材の育成ということである<sup>19</sup>。要するに、香港の教育は個人の生き方から、国家、そして世界への多角的な視野を持っている人材を育成することにある。そこで、現在の香港の大学の日本研究学科で開講されている日本研究のコースは日本と香港、日本と中国、日本と欧米の人文、文化比較対照研究など多種多様なものがあり、正しく“path breaking, highly interdisciplinary research, expand in all directions to host a large and influential body of faculty and students”<sup>20</sup>の21世紀に相応しい日本研究だといってもよからう。以下の表で香港大学、香港中文大学と香港城市大学における学部レベルの日本研究の科目を簡単にまとめておく。

	香港大学	香港中文大学	香港城市大学
日本中心	Introduction to Japanese studies, Introduction to Japanese linguistics, Modern Japanese short stories, Introduction to Japanese literature, Japanese business: an anthropological introduction, Anthropology of Japan, Japanese enterprise groupings, Popular culture and	日本文化與社會概論、 日本流行文化入門、 日本語言文化面面觀、 日本の環境破壊與保護、 從電影分析日本文化與社會、 日本動畫、漫畫及遊戲入門、 日本的消費文化入門：愛美・時尚・次文化、 日本傳媒文化、 日本文化史、 日本傳統文化與現代社會、 日本音樂與表演藝術、 日本經濟發展史、	Introduction to Japanese Society, Introduction to Japanese language and linguistics, Introduction to Japanese literature, A Portrait of Japan: Experiencing Japanese Culture,

	artistic activity in Japan, Japanese business, culture and communication, The media and Japan, Education in contemporary Japanese society, Understanding Japanese business through novels, Contemporary Japanese fiction, Contemporary Japanese popular music, Japanese film	日本經濟導論、 日本文學、 日本文化之人類學研究、 現代日本文學研究、 日本語言學、 語言學研究和日語教學專題	Learning Japanese Language and Society through the Media
日本とアジアの比較研究		中、日、韓電影的欣賞與比較、 日本及亞洲文化創意工業、 日、中、韓之政治文化與商貿環境、 日本青少年文化在亞洲、 日本與亞太經濟關係	
日本と国際の比較研究	Negotiation and conflict resolution: a cross-cultural perspective, Communication and society	日本流行文化與文化全球化、 日本經濟與美國、中國及太平洋的跨國企業、 從比較角度看日本經濟與企業、 日、歐、美電影的潮流與意識	
日本と中国の比較研究	China and Japan	現代中日關係論、 中國文化在日本：唐代與平安時代的關係、 日本與中國：歷史、社會與文化	The History of Cultural Exchange between Japan and China, Japan Viewing China: An Introduction to the History of Japanese Sinology
日本と香港の比較研究	The changing image of Hong Kong in Japanese writings, Comparative linguistics: Cantonese and Japanese I Comparative phonology, Comparative linguistics: Cantonese and Japanese II Phonological transfer and pedagogy in foreign language acquisition, Comparative linguistics: Cantonese and Japanese	日本與香港	

	III Syntactic features and pedagogical implications, Japanese popular music and Hong Kong society, Women in Japan and Hong Kong, Understanding Popular Culture in Japan and Hong Kong		
--	--	--	--

(資料: School of Modern Languages and Cultures, University of Hong Kong (2008) *Japanese Studies Booklet*; 香港中文大学本科生手冊文学院日本研究2008-09年度科目総表; City University of Hong Kong (2009) Dept of Chinese, Translation and Linguistics, programme booklet. )

以上の表で分かるように、現在の香港の大学の学部における日本研究の科目は範囲が広く、日本と香港、中国、アジア地域、国際社会との比較対照研究にまで及んでいる。現在、これらの科目は殆ど、英語か、中国語または広東語で教授されている。ところが、2009年からの新しく高校教程に日本語が選択科目として取り入れられることによって、2012年に大学に入学する学生で日本語を選択した者はCambridge International Examinations のAdvanced Supplementary (AS) Level<sup>21</sup>に達するレベルの日本語学力が身につけているということで、大学の日本研究学科に入学してから、高校で学習した日本語を生かして日本語で日本研究の科目の勉強が可能だと思われる。また、2012年から、香港の大学は四年制になるため、大学在学期間が長くなり日本語教育と日本研究のよりレベルの高い学習が期待される。

### 3 まとめと展望:

アメリカのある日本研究専門家が、21世紀の日本研究について、次のようにのべている。

Over the next decade, ...two trends will become increasingly visible in Japanese studies. ... training specialists for careers that involve transmitting specialised knowledge about Japan to a wide public audience ... The second trend is that Japanese studies will be increasingly fused with the study of other areas, peoples, and languages. ... need to reconnect Japanese studies to the rest of the world<sup>22</sup>.

(次の10年で、以下の二つの傾向が顕著になるだろう。ひとつは、日本に関する専門的な知識を広く一般に知らしめるような職に就くための訓練で、もうひとつは、日本研究が他の分野、人材、言語とますます融合されていくだろうということだ。つまり、日本研究を世界の他の部分と再びつないでいくことが必要だ。)

香港でも、今後日本語教育と日本研究の有意義な提携が期待できると思われる。現在香港の大学で開講されている日本研究の科目は日本中心ものから、比較研究、文化研究などまで幅広く及んでおり、新しい学制の元では、学習者の日本語力を生かして、今まで、英語や中国語や広東語で行われていた授業を日本語で行うことも可能になると思われる。そうすると、日本語で日本研究をする、日本研究で日本語力を向上させるという日本語教育と日本研究とのより有効な相乗効果が期待できる。なお、日本研究を担当する教員は学習者の日本語力を補強するために、次の英語教育学者の英語学習者への指導の提案が参考になると思われる。(1)教室で学習者に内容の関連文脈を提供し、言語的な支援をする。(2)特定の内容の効率的な学習と勉強のやり方のモデルを提供する。(3)より多くの教室内のインターアクションの機会を与えることによって、新しい概念、言語表現とタスクをより理解してもらうことができ、学習者が記憶しやすくなる<sup>23</sup>。

言うまでもないが、日本語教育担当の教員の協力も大変重要なものになる。例えば、学生が勉強している日本研究に役に立つ教材などを可能な限り語学の教材として取り入れる。日本語教育と日本研究の教員の緊密な共同作業が望ましい。理想的なのは日本語教育の教員は自分の得意な分野の日本研究を教え、また一方日本研究の教員は一部分の自分の分野、またはそれに近い日本語の授業を教えることだと思われる。

なお、香港だけではなく、日本もアジア各地域（そして恐らく世界中と言ってもよいのではないかと思われるが）の政府の教育政策の筆頭に上げられる方針は21世紀「知識基盤社会」<sup>24</sup>の時代に相応しい国際競争力のある人材を育成することであろう。そこで、日本研究は地域及び国際人文、文化の比較研究の最適な土壌になると思われる。既に紹介した香港大学と香港中文大学の日本研究のコースのかなりの部分は地域比較研究、比較文化研究の分野に属しているもので、全人教育・生涯学習の一環、日本研究専門家、国際人・グローバル人の育成に大いに期待できると思われる。

従って、香港の高等教育・研究機関にける日本研究を日本語で行うことが望ましいことではあるが、国際人・グローバルな人材を育成するために今まで通りに、英語、中国語や広東語の何れで日本研究を行うことで、より多くの日本語の学習をしていない日本研究の可能性を与え、国際的な視野を広げてやれるという利点もある。

参考文献：

日本文部科学省(2008) 中学校学習指導要領解説：総則編。

City University of Hong Kong (2009) Dept of Chinese, Translation and Linguistics, programme booklet.

- Education Commission (2006) *Progress Report on Education Reform (4)*.  
Hong Kong: Hong Kong Government.
- Hong Kong Government (2007) *A Mid Term Report from the Education Bureau to School Heads and Teachers in Hong Kong*.
- Kinsella, Kate (1997) “Creating an Enabling Environment for Non-Native speakers of English” in Morey, Ann Intili, Kitano, Margie K. (1997) (eds.) *Multicultural Course Transformation in Higher Education: A Broader Truth*. Boston: Allyn and Bacon. 104-125.
- Lavine, Roberta Z. (2001) (ed.) *Beyond the Boundaries: Changing Contexts in Language Learning*. Boston: McGraw Hill.
- Leung, Maggie O. Y. (2007) “Japanese Language Education and Teaching Materials in Hong Kong”, in *The Japan Society of Hong Kong 45<sup>th</sup> Anniversary Commemorative Volume*, Hong Kong: The Japan Society of Hong Kong.
- \_\_\_\_\_ (2006) “Japanese Language Education and Japanese Studies in Hong Kong”, in *Japanese Culture in Hong Kong*, published by Hong Kong University Press. Pp.219-234.
- \_\_\_\_\_ (2003) “Japanese Studies Programme in the New Century”, in *The Japan Universities Alumni Society of Hong Kong Annals*, Volume 28, 2003. The Japan Universities Alumni Society Hong Kong. (Japanese)
- School of Modern Languages and Cultures, University of Hong Kong (2008) *Japanese Studies Booklet*.
- Steinhoff, Patricia G. (2001) “Japanese Studies in the United States: The 1990s and Beyond” in Center for Japanese Studies, the University of Michigan (2001) ed., *Japan in the World, the World in Japan: Fifty Years of Japanese Studies at Michigan*. Ann Arbor: the University of Michigan. P.221-227

Website:

香港中文大学本科学生手冊文学院日本研究2008－09年度科目總表及簡介：

[http://rgsntl.rgs.cuhk.hk/aqs\\_prd\\_applx/Public/Handbook/](http://rgsntl.rgs.cuhk.hk/aqs_prd_applx/Public/Handbook/)

Education Bureau Circular Memorandum (2009) No 42/2009 :

[www.edb.gov.hk/ed/ole](http://www.edb.gov.hk/ed/ole)

---

<sup>1</sup> Education Commission, Hong Kong (2006) *Progress Report on the Education Reform (4) December 2006*. Hong Kong: Hong Kong Government.

- 
- <sup>2</sup> 2012年から香港の全ての大学が四年制になる。
- <sup>3</sup> 香港大学、香港中文大学、香港科学技術大学、香港理工大学、香港城市大学、浸会大学、嶺南大学、公開大学、香港教育学院、樹仁書院の10校である。
- <sup>4</sup> 香港大学、香港中文大学、香港理工大学、香港城市大学の四校である。
- <sup>5</sup> これはCertificate Courseと言われている。
- <sup>6</sup> 香港の日本語教育について、拙著“Japanese Language Education and Teaching Materials in Hong Kong”, in *The Japan Society of Hong Kong 45<sup>th</sup> Anniversary Commemorative Volume*, Hong Kong: The Japan Society of Hong Kong 2007をご参照。
- <sup>7</sup> Education Commission (2006:24).
- <sup>8</sup> 筆者にとっては、日本語は第三の書き言葉で、英語と中国語と広東語と潮州語に続いて第五の話し言葉になる。
- <sup>9</sup> School of Modern Languages and Cultures, University of Hong Kong (2008:8)によると  
“Language-intensive courses are used to back up the core language courses and are designed to broaden students' knowledge of Japanese through a wide range of reading and listening materials, such as novels, short stories, news reports, essays, comic books and so on. The primary aim of most of these courses, however, is to make use of such materials to analyse and discuss various aspects of contemporary Japanese society and culture.”
- <sup>10</sup> 主なコースはModern Japanese short stories, Japanese into English Translation, Chinese/Japanese, Japanese/Chinese Translation, The changing image of Hong Kong in Japanese writings, Selected readings in Japanese studies, Contemporary Japanese fiction, Media Japanese, Contemporary Japanese popular music, Japanese film, Japanese in popular culture, Business Japanese, Advanced business Japanese, Communication and society, Advanced media Japaneseなどがある。
- <sup>11</sup> School of Modern Languages and Cultures, University of Hong Kong (2008:10)によると“By the end of the programme, students will be able to: Display the ability to articulate a sophisticated level of critical and analytical argument about Japan in Japanese, sufficient to create a sound basis for postgraduate research in a Japanese-medium programme.”
- <sup>12</sup> 例えば芸術学科はThe whys of where: visual geographies of China and Japan, Arts of Japan, Visual culture of modern Japan, 歴史学科はMeiji Japan, 1868-1912, Modern Japan since 1912, Life in Tokugawa Japan, 1603-1868, 社会学科にはJapanese economic institutions, Japanese society などがある。
- <sup>13</sup> 筆者の担当している“Women in Japan and Hong Kong” というコースは2008-2009年度に32名の受講生がおり、中の15名は社会学部、商学部の学生で、半分以上は日本語が全くできない。それに、中には日本人4名、韓国、アメリカ、中国大陸の留学生各一名いるという多国籍、多言語のクラス構成である。
- <sup>14</sup> 香港中文大学本科学学生手冊文学院日本研究2008-09年度科目総表及簡介：  
[http://rgsntl.rgs.cuhk.hk/aqs\\_prd\\_applx/Public/Handbook/](http://rgsntl.rgs.cuhk.hk/aqs_prd_applx/Public/Handbook/)をご参照。
- <sup>15</sup> 例えば、傳媒日語、日本文學、高級日中翻譯、高級中日翻譯、高級日英翻譯、高級英日翻譯などである。[http://rgsntl.rgs.cuhk.hk/aqs\\_prd\\_applx/Public/Handbook/](http://rgsntl.rgs.cuhk.hk/aqs_prd_applx/Public/Handbook/)をご参照。
- <sup>16</sup> City University of Hong Kong (2009) Dept of Chinese, Translation and Linguistics, programme booklet.
- <sup>17</sup> 例えば、日本歴史、日本文化と社会、日本文学の入門など。
- <sup>18</sup> Education Commission, Hong Kong (2006:3).
- <sup>19</sup> Hong Kong Government (2007:1) “enable every person to attain all-round development in the domains of ethics, intellect, physique, social skills and aesthetics according to his/her own attributes so he/she is capable of life-long learning, critical and exploratory thinking, innovating and adapting to change; filled with self-confidence and a team spirit; willing to put forward continuing effort for the prosperity, progress, freedom and democracy of their society, and contribute to the future well-being of the nation and the world at large.”
- <sup>20</sup> Steinhoff (2001:226)
- <sup>21</sup> Hong Kong Government (2009) *Education Bureau Circular Memorandum No 42/2009*. P.2 [www.edb.gov.hk/ed/ole](http://www.edb.gov.hk/ed/ole) をご参照。
- <sup>22</sup> 20同。
- <sup>23</sup> Kinsella, Kate (1997:112-3).

---

<sup>24</sup> 日本文部科学省(2008)。